

(8) うめ

時期	対象病害虫	防除法	注意事項
7 月中～下旬	アブラムシ類	・モスピラン顆粒水溶剤	○ ハダニ類の多発園では、ダニサラバフロアブルを使用する。
8 月下旬以降	黒星病	・トップジンM水和剤 又はオーシャイン水和剤	○ トップジンM水和剤は環紋葉枯病にも有効である。 ○ 環紋葉枯病多発園では、落葉処理を徹底する。
9 月下旬以降 (落葉後)	コスカシバ	・ガットキラー乳剤 又はフェニックスフロアブル	○ 樹幹部及び主枝に散布する。 ○ 残葉に薬液がかかると薬害が出る。
12 月	カイガラムシ類	・マシン油乳剤(95%) 又はスプレーオイル	○ 太枝や主幹部などに寄生しているカイガラムシ類は、薬剤散布前にワイヤーブラシ等でこすり落とししておく。 ○ マシン油乳剤(95%)には、95マシン、トモノール、マシン油乳剤95、機械油乳剤95、高度マシン95、スケルシン95がある。
2 月～3 月上旬 (発芽前)	ハダニ類 カイガラムシ類	・石灰硫黄合剤	○ 胴枯病の被害枝は切り取り、ビニロウなどを塗布する。 ○ オビカレハ(ウメケムシ)の卵塊を除去し、つぶして処分する。 ○ マシン油乳剤(95%)又はスプレーオイルとは1か月以上の散布間隔をとる。
開花後～葉芽発芽前まで	かいよう病	・Zボルドー (クレフノン加用)	○ コスカシバの食入幼虫は捕殺を励行する。 ○ 開花期の散布は厳禁。
4 月上旬 (展葉初期)	黒星病	・オーソサイド水和剤80 又はデランフロアブル 又はベルコート水和剤	○ 黒星病にはサルファーゾル、イオウフロアブル又はコロナフロアブルなどでもよい。
	アブラムシ類	・ウララ DF	
4 月中旬～下旬 (幼果期)	黒星病	・オーシャイン水和剤 又はインダーフロアブル	○ コスカシバの多発地域では、性フェロモン剤(スカシバコL)による防除を行う。 共通防除の章の性フェロモン剤による害虫駆除の項 参照。
	アブラムシ類 ケムシ類	・ダントツ水溶剤	
5 月上旬～中旬			○ ウメシロカイガラムシの多発地では、幼虫発生初期にトランスフォームフロアブルを散布する。
5 月中旬 (果実肥大期)	黒星病 すす斑病(すす斑症)	・スコア顆粒水和剤 又はストロビードライフフロアブル	○ 黒星病にはサルファーゾル、イオウフロアブル、コロナフロアブルなどでもよい。 ○ ストロビードライフフロアブルは環紋葉枯病にも有効である。
	アブラムシ類	・モスピラン顆粒水溶剤	

農薬登録情報 (農薬名順)

- ・ [殺菌剤](#)
- ・ [殺虫剤](#)
- ・ [展着剤及びフェロモン剤](#)

農薬登録情報 (RACコード順)

- ・ [殺菌剤](#)
- ・ [殺虫剤](#)
- ・ [展着剤及びフェロモン剤](#)